

2013年12月22日

蠟山中国シルクロード展見学

及び取手駅周辺のまち歩き

集合場所・時間：14時取手駅東口改札集合
 参加者：蠟山、柴田、村口、土岐、小林

蠟山、柴田、村口、小林の4名は駅前に集合。展示見学を終えたら、蠟山が近くの寺院などを案内してくれるという。

14:00過ぎに土岐はどうしているのだろうかと言いながら、取手駅の展示場所の通路に行くと、土岐が待っている。すれ違ったようだ。何年振りかなので、お互いに気が付かなかったのだろうか。



蠟山が一つ一つ説明しながら展示物を紹介してくれる。蠟山の手作りの手書き説明パネル、そこには写真や簡単な説明メモも貼られている。前面の空間には、蠟山がシルクロードで購入した土産物を展示している。

蠟山は中国勤務期間中に6回シルクロードを旅行している。

蠟山の展示コンセプト。

展示パネル：

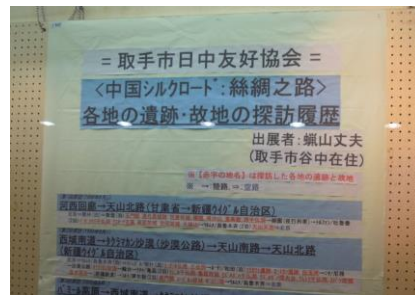
- (A)シルクロード各地の探訪履歴
- (B)シルクロードの位置と歴史
- (C)各地の地理,写真・概説(遺跡,自然風景)
 - (i)新疆ウイグル自治区
 - (ii)甘粛省・陝西省,他
- (D)シルクロードに住む少数民族(写真)
- (E)人々の暮らし(写真)
- (F)代表的な『辺塞詩』(シルクロードを詠んだ漢詩)

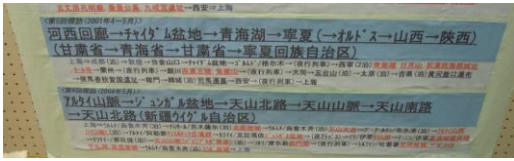
展示物品：

- (A)各地の工芸品(玉器,鋳物,陶器,人形,拓本)
- (B)掛け軸(辺塞詩)

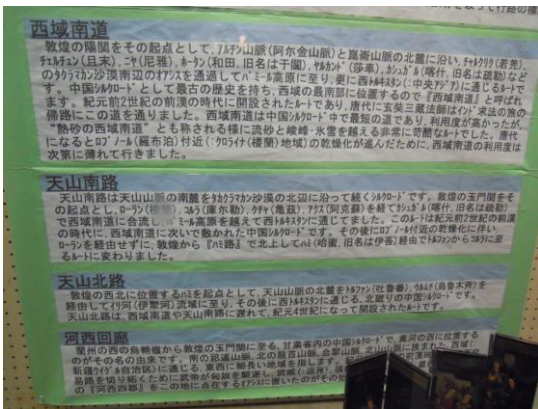
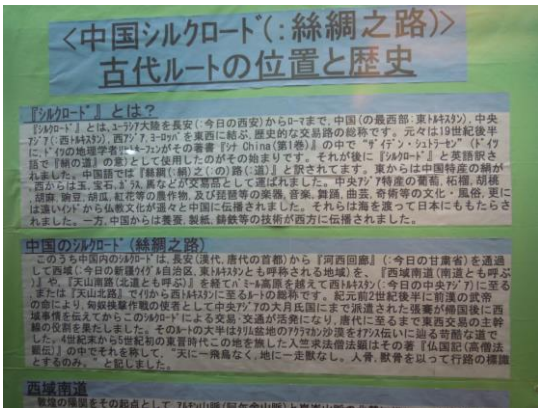
<(A)シルクロード各地の探訪履歴>

英語でのシルクロードは、ドイツ語でザイデン・シュトラッセ、中国語で絲綢之路。まずスタートの6回の探訪場所のルート概要説明のパネル。





<(B)シルクロードの位置と歴史>



(C)各地の地理,写真・概説(遺跡,自然風景)>

蠟山が探訪した遺跡や故地を2つの説明地図に赤で記してくれている。鉄道移動もあるが、田舎バスでの移動も多かったようだ。
 <(イ) 新疆ウイグル自治区>



<(ロ) 甘肅省・陝西省、他>

西安から敦煌などシルクロードへの入り口。

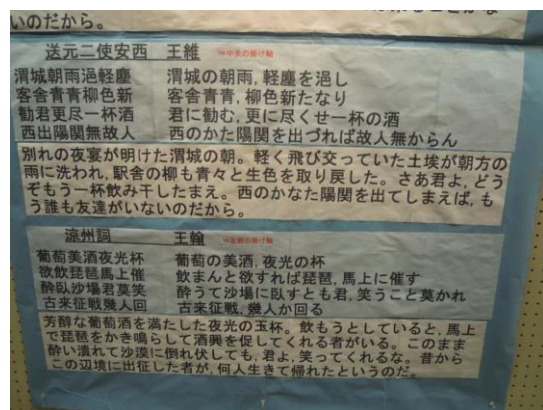
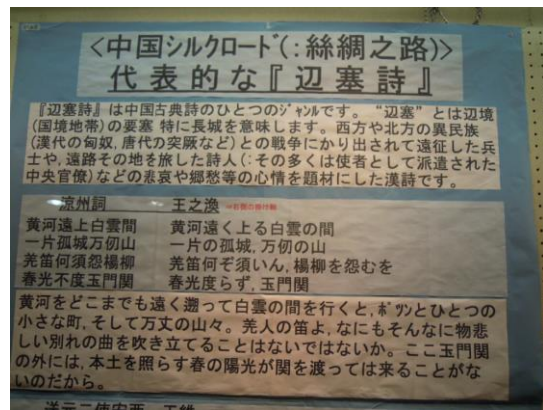




<(D)シルクロードに住む少数民族(写真)>



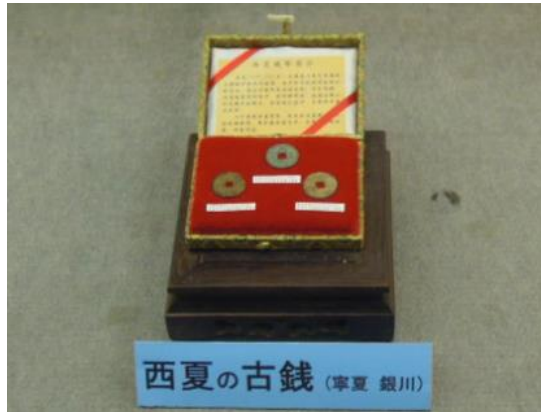
<(F)代表的な『辺塞詩』(シルクロードを詠んだ漢詩)>



<(E)人々の暮らし(写真) >



<展示物品：(A)各地の工芸品(玉器, 鋳物, 陶器, 人形, 拓本) >
 高価なものや珍品はやはりここには展示していない。いつか蠟山の家に見学に行こうとの話も出ている。





壁画のレプリカ (甘肅 酒泉)



崑崙玉原石 (新疆 ホータン)



玄奘三蔵像 (新疆 トルファン)



香炉 (新疆 カシュガル)



踊るウイグル人 (新疆 クチヤ)



玉石彫刻 (酒壺)



隕石の小塊 (新疆 アルタイ)



玉石彫刻 (香炉)



この夜行杯で長城ワインを飲んだ記憶がある。



<(B)掛け軸(：辺塞詩)>



見学の仲間からはどこかの博物館や管理をきちんとしているところに管理してもらってはと話を。家族は蠟山の収集物には関心を持ってきていないので、捨てられるのか、どこかに管理してもらうかしかない。蠟山は高価なものはこれこれだとは伝えてあるようで、それらは保管されるか換金されるかはするかも。

翌日の松木さんの見学報告：

シルクロード展、今日行って来ました。手作り感と、蠟山さんの心持のまっすぐに現れた素晴らしい展示でした。あの展示物をひとつひとつ手がけられた蠟山さんのある種の愛を感じました。つまらない商業的だったり、現代アートのだったりの展示ばかり見て来た目にはとても感動的な出来事でした。でもあそこ寒かったですね。

取手周辺のまち歩き

見学は1時間ほどで終了。村口は用事があり先に分かれる。残り4名で蠟山の案内で長禅寺と本願寺を見学する。

<長禅寺>

取手駅の東口を5分ほど歩くと長禅寺の急な階段の前に着く。創建は平将門と伝えられていて、新四国相馬令嬢八十八か所の草本地。



長禅寺三世堂

外観は2層だが、内部は3層となっているようだ。お参りする人は入口で手を合わせ順路に従って進めば、途中で交差することなく一巡できるという、「さざえ堂」形式になっていると説明がある。



<本願寺>

風が吹いて寒い。少し離れているということなのでタクシーで移動。



ここは本多作左衛門重次がこの地に封ぜられるや菩提所としたところ。重次が、陣中から家族にあて「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな、馬肥せ」と書き送ったことで有名。お仙とは嫡子仙千代のこと。



重次関連のものが飾られている。



本多作左衛門重次のお墓の場所を聞いて蟬山も初めて訪問した。10分ほど離れたところの小高い山の頂上にあった。



家康公から拝領の金のうちわ



ここから取手の駅にゆっくりと歩いていく。土岐は少し付き合うと言って、駅そばビル5階にある居酒屋（4時過ぎでもやっている店が最近はあるのですね）まで同行。しばし歓談して家に戻る。残りの蟬山、柴田、小林は高校時代、特に蜂須賀先生関係を話題にしばらく飲み続ける。正月のD組の新年会で蜂須賀を話題にしようと別れる。